



校長室だより

自立に向かって「自分から」

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第15号 令和4年11月21日

小美玉市立美野里中学校

ときには夜空を見上げてみましょう

先日、11月8日（火）に皆既月食がありました。天王星食が同時に見られるということもあり、メディアでも大きく取り上げられました。ご覧になった方も多かったと思います。天文ファンならずとも、ずっと眺めていたい夜空に出会うこともあるでしょう。

これから冬にかけて、夜は寒いですが、星がきれいに見える季節です。その理由は、

- ① 日が沈むのが早いので空の残照が少ないから
- ② 大気中の空気が乾燥して空気中の水分量が低いから
- ③ 冬の季節は一等星が多く出現するから
- ④ 大気と気流が安定して塵や埃が舞わないから

だそうです。

ところで、美野里中学校A棟の屋上には、シンボルフォルムとなっている丸いドームがあることにお気づきでしょうか。実は、私も今回初めて入ったのですが、中には「天体望遠鏡」があるのです。現在は、修理不可能な状態になっています。稼働していた当時は、夜、天体教室も開かれたそうです。覚えていらっしゃる方もいるかもしれません。

私は、社会科の教員であり、特に理科が得意というわけではありませんが、天体には昔も今も興味があります。（そうは言っても、決して詳しいわけではありません。）

私が中学生だった頃、水戸の南町に大きな眼鏡屋さんのビルがあり、その最上部がプラネタリウムになっていました。季節によって上映される内容が新しくなり、そのたびに、小遣いを手に、わくわくしながら観に行きました。スクリーンに映し出される星座とともに、その星座にまつわるお話も紹介され、ロマンをかき立てられました。

また、その頃、松本零士氏の「銀河鉄道999」というマンガがはやっていました。これも地球とは異なる星を想像させてくれるマンガで、とても好きでした。（そんな影響もあり、私は、地球以外にも知的生命体がいると信じている一人です。）

今年9月には、探査機「はやぶさ2」が小惑星「りゅうぐう」から持ち帰った砂などの試料に水が含まれているのを確認したというニュースが飛び込みました。さらに、地球温暖化の影響もあってか、火星への移住計画も着々と進行しているという報告もあります。

人類が、宇宙という壮大なフィールドに直接挑もうとする時代がやってきたことは驚くべきことですが、はるか昔から続く宇宙の営みに比べたら、一人の人間の一生など、ほんの一瞬のできごとにはすぎません。それでも、この世界に生を得た喜びを噛み締め、時には夜空を眺めながら、自分のちっぽけな悩みなど、どれほどのことなのだろうと思いを馳せてみるのもよいことなのではないでしょうか。夜空の向こうの「大きな大きなもの」に目を向けてみてください。

